手をつなごうや　宇和島の未来のために

# 未来つながる宇和島通信

2019年
12月
vol.6

## 特集

「高校生まちづくり課」2期生・兵頭舞華さんに聞く

## 視野が広がって見えた宇和島の豊かさ

話を伺ったのは、去年に続き2回目の参加となる宇和島東高校商業科の兵頭舞華さん。「高校生まちづくり課」への参加を決めた理由、参加を通じて得た学びや発見について語っていただきました。

### 生まれ育った地域のことを、全然知らなかった

1期目に参加してまず感じたのは、生まれ育った地域なのに宇和島のことを全然知らないということ。津島町に生まれ市内について知らずに育ち、宇和島城や国名勝の天赦園の歴史も初めて聞く話ばかりで…。宇和島について活発に話すメンバーの意見に「そうなんだ」と聞いていることが多かった。もっと宇和島を知り、積極的に発言したいという不完全燃焼感から「2期目も参加しよう」と決めました。

### 観光地としての宇和島の魅力を考えるように

参加して変わったことは、宇和島の魅力を自分の目で見て感じたくなったこと。宇和島城に行き、改めて市内全体を眺めたり、天赦園の歴史を調べたり。すると、観光資源の豊かさに気づくように。それまで自分のまちを「観光地」として見たことはなかった。でも、宇和島城から市内を眺めると自然の豊かさに気づきますし、歴史的スポットも巡ると面白い。小さな田舎町だけれど必要なものは全て揃うこじんまりとした環境も過ごしやすいと思います。

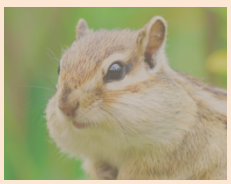
「高校生まちづくり課」のワークショップでは、宇和島の人口減少をどうするか、魅力発信のために何をすべきかなど、すぐに答えの出ない難しいテーマを考えることもあります。なかなか納得のいく意見は出せないけれど、考えるプロセスに意味がある。同世代の仲間から「そんな考え方があるんだ」と刺激を受けられるのも、貴重な機会だなと思います。

卒業後は一度宇和島を離れ、違う場所から地元を見てみたいです。都心で活躍するバリキャリ女性にも憧れますし、離れることで宇和島をまた一段と好きになるかも。「高校生まちづくり課」に参加し視野が広がる面白さを実感したからこそ、自分の世界は自分で広げていきたいんです。新しい角度から宇和島の良さを見つけられたらいいな、と思っています。

みんな知ってる!?
宇和島クイズ
大楽寺編

Q 吉田町にある大楽寺は別名、何寺と呼ばれているでしょう？

1 リス寺



2 うさぎ寺

3 むささび寺

答えは裏面をチェック

# 海と山に囲まれた特別な時間を作る
# 宇和島でしかできない、世界に一つの結婚式を提案したい

## 宇和島でいきいきと働く若者

ウエディングプランナー
**水野 千尋さん**

宇和島市を拠点に活動する、フリーランスのウエディングプランナー・水野千尋さん（26）。沖縄でのホテル勤務を経て、現在は地域おこし協力隊員として活動する夫と3歳の娘と、九島で3人暮らしをしています。宇和島ならではの式を提案したいと、市内のさまざまなスポットを開拓しているとか。

## 宇和島名産品・真珠から、やりたい仕事が見えた

ウエディングプランナーの仕事を知ったのは、宇和島の名産品である「真珠」がきっかけでした。父が真珠養殖をしていたのですが、その工程を知ったのは、母校・宇和島水産高校でのことでした。養殖業の授業で、何の変哲もないただの白い球が、何カ月もかけてキラキラと輝く宝石になって海の中から出てきた。その様子を目の当たりにして、なんて神秘的でロマンチックなんだろうと心をつかまれました。それまで地味なイメージだった真珠が途端に愛らしくなり、「若い世代にも真珠のかわいさを伝えたい」「結婚式と絡めたら伝えられるんじゃないか」と思うように。結婚式は、それまで別々の人生を歩んできた二人が家族になる瞬間です。真珠が、何ともない球から宝石になる過程とリンクして、「ウエディングプランナー」という仕事に興味を持ち始めました。

大きな転機になったのは、20歳になって勤めたホテルでの出会いや体験。高校卒業後は、採用してくれた地元の企業をすぐに辞めてしまいカフェでアルバイトをしていました。道が定まらずにいたとき、たまたまフリーランスでウエディングプランナーをしている方に出会い、「やっぱりこの仕事がしたい」と思いが再燃。同時に、もっと広い世界に飛び出して、人として成長したいと強く思ったんです。

ウエディングといえばホテル業だと求人情報を見ていた時、目に飛び込んできたのが、沖縄県小浜島のリゾートホテルでした。そこでイキイキと働いている自分の姿が浮かび、すぐに沖縄に向かいました。

## 人生を変えてくれた小浜島での仕事と結婚式

小浜島は本当に楽しかった。同じホテル勤務だった夫をはじめ今の私に結びつく出会いが沢山ありました。同僚は海外経験の豊富な人、美容師から転職した人など様々で、自分が選んだ道に自信を持っていた。「途中で辞めても道を変えてもいいんだ！」とすごく自由になれましたね。

その後22歳で結婚し、自分達の結婚式も小浜島で挙げました。ウエディングプランナーとして独立した元同僚にお願いし、挙式はガジュマルの樹に囲まれたビーチで行いました。大好きな場所に大好きな人たちを招待し感謝の気持ちを伝えたかった。そこは夫や同僚とよく時間を過ごした空間で、海の青とガジュマルの深い緑にいつも癒されていたんです。ただ樹が生い茂る広場なのですが、二人にとっては特別な場所。

結婚式は、お膳立てされた形式的なものではなくて、こんな風に自由であったらいいなと、式当日は心から感激しました。参加したみんなのハッピーを作るウエディングプランナーは、やっぱり素敵な仕事。私はこの仕事に本気で取り組もうと決意した瞬間でもありました。

## 宇和島にしかない式を提案したい

Uターンし拠点を九島にしたのは、夫が地域おこし協力隊員になったから。私は宇和島市内出身ですが、祖父と祖母は九島出身。結婚にあたって夫を連れて九島に挨拶にいったら、彼が九島に一目ぼれしたんです。もともと夫の夢は、魚のおいしい飲食店を開くこと。九島に来て「ここは日本で一番魚がおいしい場所だ」と開業を決めたみたい。まずは協力隊員として働きつつ開業準備を進めることになり「じゃあ、私は宇和島でウエディングプランナーに挑戦しよう」と二人の仕事が決まりました。

戻って約2年で手掛けたのは、結婚式やパーティのプロデュース、会場のセッティングなど。酒蔵を使った挙式と披露宴など、新郎新婦の想いを形にした素敵な式にも携われました。私がこだわっているのは、宇和島の自然景観を生かしたロマンチックな結婚式。九島の森での挙式や、夕日が沈む時間に合わせたパーティ、九島近海でとれた鯛料理のケータリングなど、ここにしかない式を提案できるように、宇和島のいろんなスポットの開拓を進めています。夫が飲食店を開業したら、地元の新鮮食材を使った料理とのコラボレーションも企画できます。「こんなに豊かな食材がある」「この景色が素敵」と新鮮な視点でまちを見れるのは一度宇和島を出たからこそ。海を眺めていると心が穏やかになる、この土地が持つ癒しのパワーにも、ずっといたら気づかなかったと思います。

今は、パソコン1台あればどこでも仕事ができる時代。宇和島に戻ってきたいけれど仕事はどうしよう、と思っている方も、ここを拠点に全国相手に仕事をすることもできると思うんです。また、地元の方とのつながりができてくると、皆さんが何気なく続けている趣味のクオリティの高さに驚きます。素晴らしいお花を活ける方、苔（こけ）の作品を作る方、九島で獲れた鹿肉やイノシシをおいしく調理する方など、「これを商品にしたら、売れるのに！」と思う才能が沢山ある。Uターンで戻ってきたからこそ見える価値に光を当てれば、何か面白いプロジェクトを立ち上げられるかもしれません。アイデア次第で仕事は広がる。そんな可能性も感じています。

**クイズの答え**

**3.むささび寺**

境内をむささびが飛び交うことから、むささび寺と呼ばれています。

未来つながる宇和島プロジェクト

**SNSで情報発信中！**

YouTube　LINE@　facebook　instagram

お問い合わせ　〒798-8601 愛媛県宇和島市曙町１番地　宇和島市 企画情報課 地方創生係　TEL 0895-49-7105　FAX 0895-20-1905